

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色

1. 平成音楽大学の建学の精神・基本理念、使命・目的

平成音楽大学の建学の基礎は、昭和46(1971)年、文化の焦点が中央に偏在し、地方文化の発展が遅々としていた当時、「九州から音楽文化を発信させたい。九州に音楽大学を」という出田憲二（現御船学園名誉理事長、当時熊本県警察音楽隊楽長）の熱い情熱と、その意に賛同し集まった先達の行動と想いにより成っている。

その基礎の上に、九州で中央の音楽大学に劣らない音楽教育を行い、地域の音楽文化を担うことのできる学生を育成し、やがては「九州から音楽文化を発信する」ことを目的として、創設者の出生地である閑静な郊外の地、熊本県御船町の台地（熊本市中心部から公共交通機関利用で約30分の距離）に学校法人御船学園を創設し、熊本音楽短期大学を開学することとなった。

開学当初から、九州唯一の音楽単科の短期大学として音楽文化の発信基地となるべく、次の点を大学の使命・目的として教育の基本理念に掲げてきた。

- ①「音楽芸術の真理の探求」
- ②「創造性豊かな心を持つ人間育成」
- ③「地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成」

開学29年目となった平成13(2001)年、社会情勢や人々の価値観が変貌し18才人口が減少する中、高学歴志向社会と相まって短大よりも学部への進学を望む者が増えた。そこで本学も多方面から検討を重ねた結果、短期大学である「熊本音楽短期大学」を四年制大学の「平成音楽大学」へと改組転換した。

その折、短期大学からの教育理念を継承するとともに、短期大学時からの音楽療法士の育成等の部分を充実させるために新たに

- ④「福祉の進展に寄与する人材の育成」

という項目を教育理念に加えた。

これらの事項は学則第2条において「本学は、教育基本法及び学校教育法の精神に則り、広く知識を授けるとともに、音楽芸術の真理の探究と技術の錬磨を教授研究し、創造性豊かな心を持つ人間形成を図る。もって人類の文化と福祉の進展に寄与する有為な人材の育成を目的とする。」として示している。

大学の名称は、年号が「平成」となってから初めて開学した音楽大学であること、新しい時代に求められるスタイルの音楽大学を目指すこと、から付けられた。卒業生が熊本県や九州等の地域に限定されず全国で活躍できるように、との理由から地域名は使わなかった。

九州唯一の音楽単科の大学として学部は「音楽学部」の1学部、学科も「音楽学科」の1学科とした。学科を編制するにあたっては2つのグループにそれぞれいくつかのコースを置く形を採った。

個人指導を中心に演奏家を養成するグループとして、声楽コース・ピアノコース・管弦打楽コースを置いた。ここでは基礎的な演奏法から高度な技術までを習得させ、演奏家や指導者を育成することとした。

演習形態で音楽家を養成するグループにはクラシック曲だけでなく幅広いジャンルの創

作(作曲・編曲等)、音楽制作ができる作曲コース・電子オルガンコース・サウンドデザインコースのほか、音楽を幅広く学ばせながら教育者として養成する音楽教育コース、心身に障害を持つ人や高齢者等への音楽療法を行う専門家を育成するための音楽療法コースを置いた。こうして各コースでそれぞれに個性ある人材の育成に取り組みはじめた。

しかし社会は不景気となり経済状態が悪化してきた。18才人口はさらに減少し大学全入時代を迎え、本学も開学から定員を満たすことができず年々定員割率が高くなってきた。そこで平成 17(2005)年 4 月に「早期音楽教育の必要性」に鑑み、既設の音楽学科の単科制(入学定員 100 名)を、音楽学科(入学定員 70 名)と幼児音楽教育学科(定員 30 名)に改編し、定員確保を目標としながら、乳幼児期の音楽を通した豊かな人間形成に資する人材の育成を始めた。

音楽学部の他に 1 年課程で入学定員 10 名の音楽専攻科を設けている。

こうして平成音楽大学は現在、音楽学部総定員 400 名、音楽専攻科 10 名の課程により建学の精神・基本理念に則って運営されている。

2. 大学の個性・特色

建学の精神である「九州から音楽文化を発信する」ために教職員や学生による演奏会を毎年各地で多数開催している。九州からの音楽文化の発信として顕著なものとしてはオペラ「細川ガラシア」が挙げられる。これは作曲(現学長の出田敬三)から演出、演奏までのほとんどの作業を本学教職員と学生で行ったもので、本学を母胎とした熊本オペラ芸術協会と協力して上演した。平成元(1989)年 1 月には東京ゆうぼうとホールで公演し、地方からの文化発信として話題となった。また平成 9(1997)年 9 月には米国ニューヨークのカーネギーホールにおいて"**Kumamoto College of Music Wind Orchestra and Chorus**"として教員と学生によるコンサートを開催した。現地の満員の聴衆から賞賛を浴び、海外での活動として実績を残した。こうして九州に止まることなく、全国、外国へ音楽文化を発信し続けるという精神を継承している。

大学の教育理念において第一の使命・目的としている「音楽芸術の真理の探求」の実現のために、大学を町の住宅街から離れた小高い丘の上に設置している。周囲から苦情などを受けることなく、夜間の練習も十分に行える環境である。学内には最大 150 人収容できる女子寮を設け、夜間は 21 時 45 分まで学内の施設でピアノや楽器の練習ができる。また寮生以外についても同じ時間までの練習を認めている。自宅ではままならない音楽の練習をグランドピアノ 59 台、アップライトピアノ 63 台、練習室 81 部屋を開放し音楽芸術の真理の探求が出来る十分な環境を整えている。

第二の「創造性豊かな心を持つ人間形成」については、本学が開設しているカリキュラムのとおり教養科目により広い教養と知識を身につけさせ、音楽の基礎から高度な音楽領域までの科目により、音楽の素晴らしさや音楽が与える感性を磨き、創造性豊かな心を持つ人間形成を図っている。

第三の「地域社会の音楽文化の発展に寄与する人材育成」についてだが、たとえば平成 19(2007)年度に開催したコンサート及び教職員・学生が出演した演奏会は 75 回に及ぶ。熊本県民オペラと銘打ち熊本城築城 400 年を記念しての創作オペラ「南風吹けば楠若葉」は作曲・指揮・演出・出演・演奏のいずれも本学教職員及び学生達であり、この作品は熊

平成音楽大学

本の音楽文化を象徴するものとなった。

第四の「福祉の進展に寄与する人材の育成」として、精神・身体に障害を持つ成人や子どもに音楽を通して生きる力を育ませたり、高齢者の心を癒す音楽療法士を育成している。ここではさらに在宅介護のホームヘルパー資格が取得できる講座を正規授業の他に開設している。さらに平成 17(2005)年度より保育士養成施設の認可を得て保育士の資格も取得できるようにした。全国の音楽大学の音楽学部で保育士資格が取得できるのは初めてのことであった。この資格が取得できる幼児音楽教育学科では、乳幼児の健全な発達促進を図るにあたって重要な役割を担う音楽を、年齢や乳幼児の状況に合わせて適宜・適切に提供できる人材を育成することを目指している。平成 21(2009)年 3 月には幼稚園教諭一種免許状と保育士資格を持った音楽学士 17 名を卒業させた。このように本学では、福祉の進展に寄与する人材の育成にも励んでいる。

そのほか、本学の特徴としてクラス授業は少人数制をとり、専門実技や副科実技(専門に次ぐ科目)においてはマンツーマンの個人指導を実施している。学生と教職員の距離が近く十分なコミュニケーションを保ちながら、互いに礼節を重んじる教育を行っている。